

地域のきずな

子どもたちは地域に出かけることで多くを学び、地域はこどもたちから活力をもらうなど互いに良い関係を築いている。今まちでは、さまざまな催しや活動が行われ、子どもたちは有意義に過ごしている。

子どもたちと地域は互いに良い関係に

通学合宿の期間中、子どもたちは、地域の人や民生児童委員などが話をする「オセの話」やグラウンドゴルフなどを通じて地域のひととの交流を深めました。

子どもたちは、地域に出かけることで多くのことを学んでいます。良い影響を受けているのは子どもたちだけではありません。

グラウンドゴルフに参加した高齢者は「朝からずっと天気が気になっていました」と子どもたちとの交流を楽しみにし、合宿所のある下菅地区の人は「子どもたちがいると地域がにぎやかになる」と話すなど、地域は子どもたちから活力をもらっています。



あいさつの大切さを話す民生児童委員

さまざまな催し 充実する地域の体制

まちでは、子ども週末活動支援ボランティアセンターを町公民館に設置し、さまざまな活動を支援しています。

同センターでは、野外炊飯や陶芸教室、地域探索、魚釣りなどさまざまな催しを企画。講師は地域の人に協力してもらうなど人材育成や地域のきずなにも力を入れています。

企画も好評で、子どもたちは「自分が参加してみたい催しは、予定表を見てちゃんと決めているよ」と数か月前から楽しみにしています。



年代を越えた交流も深まる子ども週末活動

そのほか町内には、野球やサッカー、剣道、空手、テニスなどのスポーツ活動や文化活動の場があり、子どもたちはそれぞれ自分で選んで参加しています。

また、図書館を利用する子どもたちも多くいるなど、地域の受け皿や子どもたちの居場所づくりは年々充実しています。

ボランティア活動に参加する子どもたち

町内には、さまざまな活動があります。なかでも町ボランティアネットワークが行っている「誕生月を迎えた高齢者宅を訪問し、手作りのプレゼントを手渡す」企画には、毎月20人前後の子どもたちが継続して参加しています。

平成14年4月から始まったこの企画も今年で3年目。毎月第2土曜日に町公民館に集まって活動しています。



訪問先で聞いた困りごとなどをシートに記録

います。

子どもたちは、高齢者の誕生日を祝うとともに、日常生活での困りごとなどの聞き取りも行っています。その要望などは町ボランティアセンターへ受け継がれるなど、高齢者宅への訪問活動はとても大切なものになっています。

同ネットワークの山下弘彦さん（根雨）は「始めた当時の子どもたちは、緊張してうまく話をするのができませんでした。少しずつ会話を通して成長しています」と話し、高齢者は「子どもたちが訪ねてきてくれてうれしかった。誕生日を祝ってくれて感謝しています」などこの企画を喜んでいます。